

「光る！半月キーホルダー（２）」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

（４）昔の改札口にあった「入鋏パンチ」

裏の絵を描き終わって、「光る半月シール」も貼ったら、いよいよキーホルダーに入れる「工程」となる。その前に、希望者には「改札口のパンチ」を入れてあげた。このパンチは、国鉄時代のどこかの駅長さんから「廃棄品」をもらったのだが、どこの駅か思い出せない。理科では「てこの学習」に使っている。

私が子どもの頃は、どこの駅でも改札口でこれを持った駅員さんがいて、リズム良くきっぷを切っていた。池袋駅や新宿駅では、駅員さんの足元に打ち抜いたきっぷの切れ端が積もっていたものだ。自動改札しか知らない子どもたちは興味津々で、打ち抜いた「凸型」の切れ端まで、大切に持ち帰っていた。



（５）特注のきっぷサイズのキーホルダー

きっぷサイズのキーホルダーは、北海道の広尾線幸福駅の跡地の売店で売っている。しかしこれは「幸福ゆきのきっぷ」付きで、きっぷサイズのキーホルダー



だけというのは売っていない。売店の人に聞いても、仕入先は教えてくれなかった。それなら自分で特注するしか方法はない。国内のメーカーに問い合わせたところ、1個300円が最低ラインで、しかも最低ロットは1万個だという。いくらなんでも、私のサラリーでは無理だ。そこで、中国浙江省の金型メーカーと連絡を取り（何とすべて中国語のメール）、私が書いた設計図をもとに、小ロット、低価格できっぷサイズのキーホルダーを製作することができた。



（６）蓋をパチンと入れて完成、歓声！

中国のメーカーに依頼した、特注のきっぷサイズキーホルダーは、なかなかよくできている。本体の枠は、昔の硬いきっぷにピッタリのサイズ（縦2.5cm、横5.75cm）で、透明アクリル製である。蓋もアクリル製で、本体よりも0.02mm大きく設計してある。このサイズの差で、きっぷを入れて「パチン」と押し込むと、簡単にははずれないようになっている。



この「パチン」が、子どもたちにとってとても心地良かったようだ。うまくできた子どもは、「やったー、できたー！」「先生、見て見て、できたよー」と大完成・・・いや大歓声だった。